

さあ、探究しよう！

11月28日(火)7校時、1・2年生は体育館で、明治大学理工学部物理学教授の長島和茂先生のエネルギッシュな特別講義を聞きました。長島先生には、11月7日(火)、2年生の探究的学習(課題研究)の中間発表を見ていただきました。また、11月16日(木)放課後には、「探究教育を探究する」と題した教員向けの講演をお願いしました。16日の講演後、私が長島先生に、「次は28日、体育館に1・2年生全員。大人数相手にメッセージを届けるのは結構大変ですよ。」と言ったら、28日当日、ステージ前に座らされ、冒頭、早速、それをネタにされてしまいました。というわけで、この方には、迂闊なことは言えません。が、だからと言って、私が寡黙になることもありません。お互いに確信犯と言ったところでしょうか。

さて、「探究教育を探究する」ですが、これがまた大変示唆に富む深い内容でした。

【ノートパソコンを持った客(○)と店員(●)の会話】

- あのこれ修理したいんですけど
- (真顔で無反応)
- え、すいませ〜ん。
- あなたのターンですよ。
- ターン??
- あなた待ちでしょ?修理したいんですけど、なんですか?
- え、修理したいんです。
- 修理したいんですけど、修理したいんです。どういうこと?修理したいんですけどできないんですなら、文法的にわかるんですけど。
- 修理したいんですけど、どうしたらいいですか?
- 修理したいんならすればいいじゃない。それにどうしたらよいかわかっているから、ここに来たんじゃないの?

「俺(布川)って、この店員みたいだよな」と思いながら聞いていると、長島先生、「実は私、この店員みたいな人なんです」と。びっくりしました。

【学生(○)と長島教授(●)の実験室での会話】

- 実験どんな感じ?
- やって見たんですけど、まだちょっと…。
- まだちょっとどうしたの?
- ちょっとまだうまくいってないんです。
- うまくいってないって言うけど、結果は出たんでしょ。
- いや、先輩の論文のようにはまだ…。
- 先輩のデータがある。自分のデータがある。それらは異なる。どう異なったの?傾向はある?
- 結果に違いを生じた原因を考えたの?
- あなたの結果は失敗と言えるの?

こういう会話、私もします。シンフォニー第16号「AI時代を生き抜く力〜クリティカルシンキング〜」を読んだ20年前の教え子から、【「それは何故?」そうたくさんふっくんから聞かれたことを思い出しました。】と感想が送られてきましたが、これまたびっくりです。

以下、長島先生のお話を紹介しながら、いつもの私に引き寄せます。

先生曰く、『知識(基礎学力)及び知識を使って考える経験』が不十分な段階で、自由な発想での思考(空想)の癖が付くと勉強の障害』と。

先生の弁は誠にご尤もですが、もしかしたら私(布川)の言っていることと違うと思われた方がいるかも知れません。それは、次の点です。

「習得・活用・探究という学習プロセスは、必ずしも習得→活用→探究という順番を示すものではない」、これは私の持論ではなく公式見解ですが、それを踏まえての「私の持論（最も重視すべき順番）」は「情報活用→知識習得」であって、「知識習得→知識活用」ではないということです。活用する「情報」の中心はPCやインターネットではなく、教科書・資料集等です。教科書・資料集等を「読解」して、「活用」して、「知識習得」となる。活用なき「知識習得」を私は信じません。ですから、「情報活用→知識習得」であって、「知識習得→知識活用」ではないということです。そして、「探究」はやはり最後です。「情報活用」だけで「探究」できるはずがありません。「探究」の前提は「知識習得」です。しかし、「活用」の前提は「知識習得」ではなく、「情報（教科書・資料集等）」だということです。

先生は概ねこんなこともおっしゃいました。「探究活動は往々にして迷子になる場合があるが、迷子にはプラスの側面もある。困難に直面して、基本に立ち返る。その結果、ちょっと前進。（うれしい!）」

これもご尤もで、これについては私の持論への引き寄せはありません。

こんなこともおっしゃいました。「探究をしていると新しい枝が出てきて、当初ゴールと思っていたものがゴールでなくなり、新たなゴールを目指すことになる。」

「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→課題の設定→……」ということですね。業務改善におけるPDCA、Plan→Do→Check→Action→Plan→……にも通じます。

好きな科目・嫌いな科目という考え方をせず、様々なトピックに関心を持つ
「文理両道」です。

実験テキスト等を読むための実践的国語力が必要。

実践的国語力と新科目「論理国語」はストレートにつながっています。しかし、私はそもそも文学作品を通して、実践的国語力が養えないはずがないと思っています。その問題をクリアしなければ、「論理国語」のねらいも実現しないでしょう。実践的国語力は、「自らの力で『読み』『考え』『書く』」ことで養われます。学習指導要領は、国語のみならず、全教科・科目で言語能力の育成を求めています。国語以外の教科書も「自らの力で『読み』『考え』『書く』」ことで、実践的国語力は養われます。

実践的国語力を外国語学習にたとえるならば、実践的国語力は生活言語ではなく、学習言語であるということです。生活言語はツールとしての外国語学習で身に付きますが、学習言語はある特定の学問を外国語で学習することで飛躍的に身に付きます。

実践的国語力が弱いということは、その方の日本語力が学習言語としては弱いということです。これではAI（もどき）に立ち向かえません。「自らの力で『読み』『考え』『書く』」ことで実践的国語力を養いましょう。

最後に「探究教育」について。「探究教育」という表現は、「探究教育を探究する」という講演タイトルに使われた以外は、続く22枚のスライド中、1回しか登場しません。他は全て。「探究」「探究学習」「探究活動」であり、それらは自然な一般的な用語です。「探究教育」というのは、恐らくは「長島語」でありながら、その造語の意図するところを柄にもなく(?)語らなかつたものと勝手に慮り、長島先生に成り代わって、私が説明いたします。

進路学習に比してキャリア教育の領域は遥かに広く、キャリア教育はあらゆる教育活動を通して展開されます。道徳学習に比して道徳教育の領域も遥かに広く、道徳教育はあらゆる教育活動を通して展開されます。「『探究教育』もまた然り」ということではないでしょうか。「総合的な探究の時間」とどまらず、あらゆる教育活動を通じて「探究力」を育成するのが「探究教育」。「主体的・対話的で深い学び」は「主体的・対話的で深い仕事」に通ずるとするのが、私の持論です。同様に「探究的な学び」は「探究的な仕事」に通じます。即ち研究職ということではありません。どんな仕事でも、たとえば校長は、校長職を探究的に実践していく。そういう探究力が、「不確実で複雑な時代」を生き抜くために必要だということです。というわけで、

さあ、探究しよう! (右腕を突き上げる) (3年生の皆さん、HPの校長あいさつの写真です。11月28日(火)のオチにこれが使われました。)

.....
努力の報いは成長(能力伸長)。受験生、焦らず、おおらかに。できないことを一つずつ減らしましょう。できることを一つずつ増やしましょう。皆さんが一気に伸びるのは年明けです。これからです。受験最終日まで伸び続けます。「大丈夫。必ず、うまく行く。」
(ふっくん)